

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
第3回再生普及推進のための連携チーム会合議事要旨

日時：平成28年5月12日（木）10：00～11：20

場所：釧路地方合同庁舎4階 第三会議室

【出席者】（敬称略・順不同）

<個人>

- ・高橋 忠一 再生普及小委員会 委員長
- ・新庄 久志 再生普及小委員会 副委員長

<関係行政機関>

- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課
上席治水専門官 菅原 成行
治水専門官 稲垣 乃吾
開発専門職 鈴木 美帆
- ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
整備計画専門官 神馬 基夫
- ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター
所長 志村 賢二
自然再生指導官 立野 正信
- ・北海道釧路総合振興局産業振興部商工労働観光課
観光振興係長 佐々木 貴光

<再生普及行動計画オフィス>

- ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
国立公園課課長補佐 杉本 頼優
- ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
釧路湿原自然保護官 寺内 聡
- ・公益財団法人北海道環境財団
事務局次長 久保田 学
- ・公益財団法人北海道環境財団
環境教育推進課 山本 泰志
環境教育推進課 安田 智子

事務局：これより第3回連携チームを開催する。再生普及小委員長、副委員長が参加することが慣例となっているが、座長をお願いしている副委員長の新庄氏は急遽手術のため本日欠席となった。高橋小委員長は都合がつかず、欠席となる。新庄氏は今後、小委員会の役職を辞退したい旨申し出があり、(湿原再生小委員会を含め)後任を今後検討することが必要となる。

本日の議題は2つ。1つめの議題では、各小委員会事務局で予定している行事を紹介いただきたい。2つめの議題では、前回再生普及小委員会でも出された意見を踏まえて、環境省として案を提示し、ご意見をいただいた上で、次回の再生普及小委員会にかけたい。

資料確認

議事1 環境教育の取組み及び自然再生への参加機会について

事務局：資料1-1に基づき、実施主体より紹介いただきたい。

(湿原再生)

稲垣専門官：幌呂地区の現地見学会、平成24年度から着工。地元住民を対象に現場見学会を実施してきた。昨年度のアンケートを踏まえて、今後内容の改善を検討する。

神馬専門官：昨年同様に達古湖で行事実施。新規開拓と感心がある市民の継続参加の場づくりを趣旨とする。9月10日に実施が確定。昨年はヒシ刈りに加え、料理、ヨガ等を行った。今年度は、ボランティアスタッフを使い、ボランティアによる自主性の開拓を図りたい。メディアへの掲載等、早い段階から告知をしていきたい。

(旧川復元)

稲垣専門官：茅沼地区では平成23年度に工事終了。現場見学会は継続して実施してきている。上流からEボートで下りながら見学を行う。

(森林再生)

立野指導官：雷別ドングリ倶楽部をつくり、年5回程度活動。現在参加者を募集中。ボランティア植樹については、25名定員で、既に定員までの申し込みを得ている。

神馬専門官：達古武周囲の丘陵地を活用し3件のイベントを予定。8月開催行事については、調査体験を行いながら活動。2月開催行事については、観察会の形で実施。例年、標茶町の中学生が学校行事として参加いただいている。

(水循環)

稲垣専門官：市民にわかりやすく啓発する課題があり、講演会のような形で説明する機会を年度末に予定している。詳細は今後検討。

(土砂流入)

事務局：久著呂川での現地見学ツアーを実施されると聞いている。

(再生普及)

事務局：教員を対象とした研修講座、小学校や高校の授業支援、WG構成員を対象とした現地見学会等を予定している。

事務局：フィールドワークショップはヌマオロ川を予定。ワンダグリンダの活動は資料記載のとおり。

事務局：質問や補足等あれば、再生普及の行事内で年度に誤植がある。訂正してお詫びする。

事務局：報告いただいたような行事において、アンケート共通項目を設定し、それぞれの行事に必要な設問を加えてアンケートを収集いただきたいと考えている。その他、関連行事、他団体の行事についても可能な範囲で同様のアンケートを行っていただきたいと考えている。(資料1-2に沿って説明)意見があればいただきたい。

事務局：これまで共通の様式を利用いただいているものや、独自の様式が使われてきたものもある。前回

の小委員会で共通の様式をもって、集計してはという意見が背景にある。

佐々木係長：新規参加かリピーターかを把握できると良い。

事務局：毎年行っている行事であれば該当イベントに関するリピートか、自然再生関連の他行事も含めたリピートか、2本立てで聞く形になろう。

事務局：固定化とみるか、リピートとみるのか。

事務局：リピーターをどのように深めていくか、リピーターのみであった場合はどのように広げていくかが重要か。

事務局：先着順だと新規の人が参加しづらい。状況がわかれば、抽選等も検討する必要があるか。

神馬専門官：かつて、達古武の行事を抽選方式にした場合、申し込み数が減少する傾向が出た。慎重に検討した方がよい。申し込みが多く見込める場合は実施回数を増やすといったことも検討していけるとよい。

稲垣専門官：カヌーを利用した行事は先着としている。

事務局：行事によるが、検討する材料にはなろう。良い意見をいただいた。この他にも意見があれば、後日でもいただけたらと思う。

事務局：意見を踏まえてアンケートを修正し、小委員会前に推進連携チームメンバーで共有し、了解を得たい。

議事2 自然再生の普及のためのパンフレット・パネルの作成について

事務局：資料2-1に基づき説明。意見があればお願いしたい。5月6日に新庄副委員長に意見をいただき、それらはある程度反映した資料となっている。新庄副委員長からは、パネルのレベル（情報量）をパンフレットとして良いのではないかといったご意見もいただいた。

各資料を詳細に確認することはしないが、各ページの修正イメージを補足したい。パンフレットの副題については、前回小委員会では了承されたか否か曖昧だったので、次回小委で確認を行いたい。1ページ目は情報量が多い。2ページ目はイメージをあててはめ込んでおり、これらの修正に加えフォントサイズも修正が必要。各事業の内容について、成果をPRすることが重要と感じている。グラフ等も用い、わかりやすい形で成果を伝えていけるとよいのではと考えている。18ページ以降については、字数調整は難しいであろうが、写真等の変更を検討できると良い。

神馬専門官：フォントサイズの統一という話が出たが、最小フォントサイズを決めることを想定しているか。あまり小さくすると見えづらくなるので、配慮が必要。

稲垣専門官：茅沼は2ページを使っているが、ページ数は必ずしも1ページに収めなくてもよいのか。

事務局：全24ページとして各小委に割り振った。ページ数の縮小如何というよりは、図表等を組み込んでわかりやすくということであろう。

事務局：まずはページ数をそこまで意識せずともよい。必要に応じて増減を考えたい。

事務局：経緯として、情報量が多量なものについて、調整が難しいものは2ページ組み込んだ。製本の都合で、総ページ数は4の倍数となる。ヌマオロ川の旧川復元事業については入ってくるか。

稲垣専門官：現時点では組み込むことは難しいであろう。

神馬専門官：各小委の項目立てについて、目次的なものが必要なのでは。

菅原専門官：資料の「背景・目的」にあるが、口頭説明をするのは小委員会のメンバーという想定か。このままだと活用しづらい。どの内容が何ページにあるか、一覧できるページが必要。新庄氏から資料2-3で十分ではないかという意見があったということであるが、どのように考えているか。

事務局：図表を多くしてわかりやすくということでは、パンフに近いイメージになるとは考えている。

菅原専門官：文字数が多いと嫌がられる。2ページにかかっているものを1ページに収めるなど、説明側としても活用しやすいように修正を検討したい。

事務局：ページ数を減らすことにこだわるよりも、文字を減らした分図表を大きくする等、活用しやすい

ように検討いただきたい。

菅原専門官：フォントサイズはこれで決まりか。

事務局：全くの案であり、修正を前提としている。

事務局：資料はあくまでワードで作れる範囲のもの。デザイン、見易さは別途修正する前提となる。新庄氏からのその他意見として、ページ単位での活用が実際であろうし、冊子状にせず、シートとしてまとめるという方法もあろうということであった。

事務局：それぞれが作業しやすい形で原稿をつくっていただけたらと考えている。

事務局：どのように小委にかけるかを検討しなくてはならない。

事務局：資料2-2、2-3をリバイスしたイメージ案を提示する。

事務局：見出しやフォントは環境省から提示させていただく。

事務局：それを元に業者が最終調整する。

事務局：図表のフォントについては、推奨という形で決める他ないとは考えている。現時点で全てを決める必要はないと考えており、今後、調整しながら進めていきたい。小委員会提出前に確認いただくこととなる。

議事3 その他（各小委員事務局からの提案・連絡事項）

神馬専門官：協議会で配布した林業用と農業用の啓発パンフであるが、釧路町を通じ、達古武地区で配布を行うこととなった。活用の目途があれば、お声かけいただきたい。

事務局：休憩後、事務局会議をお願いしたい。再生普及小委員会は6月23日午後を開催する。フィールドワークショップは7月26日を予定。7月19日に下見を行う。ヌマオロ川を考えているが、注意点等あるか。

稲垣専門官：通路はなくかなり歩く。ホクチクファームからのアプローチでは、冬場は凍結して歩きやすかったが、夏場は足場も悪く危険性もある。橋からアプローチした方がよい。

事務局：以上で、第3回再生普及推進のための連携チーム会合を終了する。

閉会